

令和7年度 学校評価報告（星城高等学校）

建学の精神	彼我一体： 報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
基本方針	<p>※ワクワク・楽しい・行きたくなる学校を目指して、建学の精神の具現化を進める。</p> <p>※教育目標である「“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成」を達成するため、「自分探し」、「自分磨き」を支援し、生徒一人ひとりが主人公となる学校づくりを進める。</p> <p>※教職員のワークライフバランスを尊重し、適切に労働環境を整えながら、やりがいの持てる職場環境の実現を目指す。</p>		
重点目標	<p>※与える教育から、自分から学ぶ教育への転換を図り、学びの習慣を確立する指導を実践する。</p> <p>※生徒が自ら考え、自ら行動できる力を身につける指導を実践する。</p> <p>※失敗をおそれず挑戦を続ける姿勢を身につける指導を実践する。</p> <p>※社会に対応できるモラルやマナーを身につける指導を実践する。</p> <p>※社会貢献活動に取り組む力を育成する。</p>		
担当	項目	具体的方策<目標>	実施状況 (◎実施したこと *今後の改善点)
教務部	<p>明德コースのプログラム科目は、講座希望の調査方法や生徒の振分け方法、定期テストの有無、評価方法、履修単位数などを見直し、新たな運営方法を起案する。</p>	<p>○令和6年度末に実施したプログラム科目の点検評価をもとに、単位数に対してと定期テストの実施についての議論を行う。それに伴い、令和9年度の教育課程の再編成をコースの目標や実態に沿うように、あるいは、コースの目標そのものについても教務部で検討したうえ提案する。</p> <p>《A:プログラム科目の単位数や定期テストについて、議論が進んだ B:プログラム科目の単位数や定期テストについて、議論が進まなかった》</p>	<p>◎令和9年度入学生より、単位数を2単位にし、定期テストはすべての講座で実施せず、総合評価に切り替えることとなった。</p> <p>*2単位にすることで、教員の負担を軽減すると共に、魅力ある新講座の開設を今後は促したい。</p>
教務部	<p>R9年度入学生教育課程の編成を各コースの目標（スクール・ポリシー、進路方針）や実態に合うように、週あたりの単位数、時程の変更も視野に入れ検討する。</p>	<p>○明德コースにおいては、プログラム科目の見直しに合わせて令和9年度の教育課程の再編成を検討する。仰星・特進は、進路指導部とも連携をとり、より特色が明確となる教育課程について教務部で検討し提案する。（例：2年次からの仰星・特進の再編成）</p> <p>《A:令和9年度教育課程の再編成に関する検討が進んだ B:令和9年度教育課程の再編成に関する検討が進まなかった》</p>	<p>◎明德コースにおいては、大学入試の受験方式に広がりもでき、主体的・個別最適な学びを推奨するコースの特色に見合う形となった。</p> <p>*検討は進み再編成はしたが、芸術科目の選択においては、展開授業が現状より増えていくことから時間割作成において困難が予想される。全体を見通した検討が今後も必要である。</p>
教務部	<p>授業力向上を目的とした内部研修を検討する。</p>	<p>○研究授業のあり方やテーマ・対象者・授業研究会等、中等教育研究所と協議して検討することを提案する。</p> <p>《A:1つ以上提案することができた B:全く提案することができなかった》</p>	<p>◎係において、検討・協議を行った。</p> <p>*今後、全体での検討を進めていく。</p>
○教務部 ICT担当	<p>業務軽減に向けた、デジタル化（成績入力や出欠等の一体化とペーパーレス化）を検討する。</p>	<p>○一元化のシステムを有する業者の選定について検討する。（R5年度に校務支援システム「Siems」について検討し実績あり）</p> <p>《A:業者選定に関する検討が進んだ B:業者選定に関する検討が進まなかった》</p>	<p>◎係において、検討・協議を行った。</p> <p>*今後、全体での検討を進めていく。</p>
進路指導部	<p>仰星・特進・アスリート特進コースは、多様な選抜方法を活用しながらも、大学入学共通テスト、一般選抜の制度を利用して最後まで挑戦させる指導方法を検討する。</p>	<p>○一般選抜入試で進路を獲得できるように、進路指導を施していく。</p> <p>○コース別集会、個別面談を複数回実施して進路目標設定の動機付けを行い、国公立大学・難関私大を視野に入れた進学指導を施すとともに、地方国公立大学にも目を向けさせる。</p> <p>○1年生：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。</p> <p>○2年生：進研模試を活用して志望校の決定や自己採点の指導、受験勉強のノウハウを指導していく。</p> <p>○3年生：全統模試（共テ・記述）のデータをもとに、進路検討会を複数回実施して生徒一人ひとりに相応しい受験プランを設定させる。</p> <p>《国公立大学出願数延べ120名以上、国公立大学合格者30名以上》</p> <p>○英検、漢検、数検に積極的に挑戦させる。</p> <p>《英検受検150名、漢検受検50名、数検受検30名》</p>	<p>◎1・2年生の学習習慣の確立に向けた面談指導、3年生のコース別集会・個人面談を精力的に行った。</p> <p>1年生の志望校の設定、2年生の受験を想定した模試の指導を徹底した。3年生は、進路検討会を複数回実施し面談に絡めることで受験カレンダーを作成するまでの指導をした。</p> <p>英検・漢検・数検は例年の数を優に超える受験者数となった。特に英検に関しては2級受験者の数が大幅に増加する展開となった。進路内規の変更が大きく影響した結果だと思ふ。</p> <p>*多様化する受験方式に対応しながら、一般選抜で通用する学力を定着させる為の指導方法を検討する。</p>

担当	項目	具体的方策<目標>	実施状況 (◎実施したこと *今後の改善点)
進路指導部	明德コースは、四年制大学進学希望者を増やす。 総合型選抜・学校推薦型選抜を活用して大学進学を目指す。 指定校推薦について、活用を進める。	◎総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試に対応した進路指導を施していく。 ◎星城大学と星城大学リハビリテーション学院の内部進学制度を最大限活用する。 ◎1年生：毎日の授業を大切に、定期テストに向けた学習指導を徹底する中で進路指導に繋げていく。 ◎2年生：内部推薦、総合型選抜、指定校推薦、公募制推薦、一般選抜のそれぞれの受験方式に関する生徒の理解を深める指導を行うことで、進路実現に繋げる。探究活動や課外活動などの受験に対して有効な材料を準備できるよう指導する。小論文対策など入試に必要なスキルを磨くことに繋がる指導を行う。 ◎3年生：個人面談を通じて早期に志望校を決定させ、各種講座に対して必要性を説くことで積極的に参加するように指導する。スタディーサポートのGTZを指標として、総合型選抜、指定校推薦、公募制推薦、一般選抜の明確なプランを立てさせる。 《内部進学者30名、小論文講座・志望理由書き方講座受講150名以上、指定校推薦120名》 ◎多様な入試制度による進路獲得の実現に向けて各種検定を積極的に受験させる。 《英検受検150名、漢検受検50名、数検受検30名》	◎3年生は、総合型選抜・学校推薦型選抜を活用することによって県内の多くの私大に合格を決めたとともに県外の国公立大や難関私大の合格も決めることができた。指定校推薦の活用生徒を大幅に増やすことができた。 1・2年生は、スタディーサポートの結果分析などにより今後の進路をイメージさせながら指導を進めた。各種検定にも積極的に挑戦させることができた。 英検・漢検・数検は例年の数を優に超える受験者数となった。特に英検に関しては2級受験者の数が大幅に増加する展開となった。進路内規の変更が大きく影響した結果だと思ふ。 *生徒の学力層が上昇傾向にあるなかで志望する大学や挑戦する検定級に変化がみられる。今後は、生徒の学力に見合った進路指導を施していく。
進路指導部	就職は、大手企業をはじめ優良企業の斡旋が多いことから、求人数や就職指導に対して可能なことから、現状を維持する。	◎就職希望の生徒に対して、各々の適正を見極めて校内斡旋を進めていく。就職対策講座を受講させて履歴書作成の指導を実施する。模擬面接の受講や授業後の面接指導を行い、内定率を向上させる。 ◎卒業生の就職先での活躍により、大手企業（特にトヨタグループに属する企業）からお聞きする星城高校生の評判が良く、求人数を増やしている。生徒と企業のミスマッチによる離職者を出さないように指導するなど、企業の望む人材にあった生徒を的確に受験させ、今後も多くの大手企業より求人をいただけるように働きかける。 ◎就職を希望する生徒が望む企業や会社に採用されるよう適切に指導し、一次選考で採用内定100%を目指す。 《就職内定率100%》	◎就職ガイダンス・就職対策講座・面接指導を実施し、きめ細かい指導で就職希望者の就職内定率100%を達成できた。 *就職希望者の減少の中、大手企業の求人数を維持出来るかが今後の課題である。
生徒指導部	冬コートと靴の規定の見直しを検討する。	◎冬コート(①)と靴(②)の規定の見直しを学校生活向上委員会と連携してすすめる。 《A：①②の規定を変更することができた。 B：①②いずれか1つのみ変更することができた。 C：①②の2つとも変更できなかった。》	◎学校生活向上委員会や生徒会との連携を図り、意見交換を行ったうえで本校教育理念に沿った形での冬コート(防寒着)と靴の規定の見直しをして、生徒心得変更に至った。(2学期から運用) *新入生へは、入学後のオリエンテーションで説明する。
生徒指導部	生徒が制服を正しく着用する方策と教員の指導方法を検討する。	◎服装頭髪指導週間中の朝の打ち合わせを実施して、生徒指導部より指導重点項目を教職員へ伝え、共通認識のもと指導にあたる。また、生徒指導に関する情報を「生徒指導部便り」を発行して、生徒に発信することで注意喚起する。 《A：生徒指導部便り年3回発行することができた。 B：生徒指導部便り年2回発行することができた。 C：生徒指導部便り年1回発行することができた。》	◎生徒指導部便りを1回発行し、頭髪検査の日程を促した。生徒指導部重点項目を、服装頭髪指導週間の前週には、教職員へ伝えることができた。 *生徒に重点項目を周知する手段として、啓発できるプリントを作成し、教室掲示を行う。
生徒指導部	問題行動等の未然防止に向けた指導手段を検討する。	◎問題行動等の事象の兆しの時点で、職員間の情報共有を目的に朝の打ち合わせを速やかに実施し、指導手順を確認する。 《A：指導手順の確認を適切に行うことができた B：指導手順の確認を適切に行うことができなかった》	◎8月現職教育講師の弁護士吉永先生に、今までの指導手順で疑問に思ったところを確認し、指導に活かすことができています。 *次年度も生徒指導関係の現職教育を実施し、教職員が重要な点の理解を深められるように働きかける。
○生徒指導部 保健部	校則の見直し(生徒とともに建学の精神の具現化に向かう)を検討する。	◎生徒心得(生徒指導関連)の見直しを学校生活向上委員会と連携してすすめる。 《A：2つ以上の規定を変更することができた。 B：1つのみ変更することができた。 C：1つも変更できなかった。》	◎生徒指導部と学校生活向上委員会で議論を深めるとともに、生徒会と話し合う場を設けて、生徒心得の見直しを2項目行うことができた。 *他の生徒心得の項目についても、見直しの検討を進める。
○保健部 各学年	多様化している生徒へのきめ細かい教育相談対応が勤務時間内に行えるように検討する。	◎生徒への教育相談に関する案内・施策を適切な時期に年間6回以上(各学期2回以上の割合)行い、生徒が教育相談を利用しやすくなるよう複数の教育相談窓口を提供して援助していく。 《A：年間6回以上案内した B：年間5～3案内した C：年間2回以下の案内となった》	◎学期の始めや長期休暇前に教育相談の案内を記載した「はーとん」の発行が5回、愛知県心の相談のチラシのClassi配信を2回、カードの配付を1回行い、生徒の相談先を複数案内し援助した。 *一方的に生徒へ配信、配付するだけでなく、担任等の教員による教室での口頭案内ができるように促していく。

担当	項目	具体的方策<目標>	実施状況 (◎実施したこと *今後の改善点)
探究部	総合的な探究の時間の内容を仰星・特進・明德コースで一本化し、一体感を持って取り組むことで、探究的な学びを推進する。	○仰星特進・明德コース全学年の「総合的な探究の時間」において、探究の授業計画を仰星・特進・明德コースの探究部合同企画して実践する。 ○第1学年はSDGsを通して社会課題を自分事として捉え、原因や解決策の検討などに協働して取り組む態度を育成する。 ○第2学年はフィールドワーク等を通して情報収集や自分の意見を他者に伝え成果を共有しようとする態度を育成する。 ○第3学年はこれまでの活動を振り返ることや今後取り組みたい課題を考えることで自らの進路実現に真剣に向き合う態度を育成する。 《ルーブリック4段階自己評価の集計 A: 主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B: どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C: 主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D: どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》	◎仰星・特進・明德コースの「総合的な探究の時間」において、社会未来探究と世界未来探究のカリキュラムを開発し、その授業を実践することができた。 ◎1年生は、SDGsを通して社会課題を自分事として捉え、その原因や解決策の検討などに協働して取り組む態度を育成できた。 ◎2年生は、フィールドワークによる情報収集を通して自分の意見をまとめ、発表などによる内容の共有を通して課題の解決に協働して取り組む態度を育成できた。 ◎3年生は、これまでの活動を振り返ることや自らの進路実現に真剣に向き合う態度を育成できた。 *1年生は、アスリート特進コースも含めたコースの特性を生かした授業計画を行う。 *2年生は、探究の授業時間数が仰星・特進・明德コースで2時間になるため、明德コースで行った事前学習の準備を含め授業改善を行う。 *3年生は、3年間の探究の授業が進路選択に生かせる取り組みを行う。 *授業する教員の負担軽減を検討する。
探究部	研修旅行で訪問する韓国と台湾の現地交流校と継続して交流が可能になるように、また、交流が深まるように良好な関係構築を図る。	○研修旅行で訪問する韓国と台湾において、交流校の学生が準備するアクティビティを体験することを通して、本校の生徒は交流校の文化を学び、交流校の生徒は、海外への視野を広げることで、お互いの充実した学びの場とし、継続した交流につなげる。また、本校生徒は、同年代の生徒だけではなく、現地大学生とのB&S研修を行うことで、異なる年代との交流も深める。 《現地交流校の実施 A: 韓国と台湾の両国にて現地交流を実施した。 B: 韓国と台湾のどちらかの国にて現地交流を実施した。 C: 韓国と台湾の両国にて現地交流を実施できなかった。》	◎韓国：現地大学生とのB&S研修と大学生との交流会を実施し、異なる年代との交流を深めることができた。 ◎台湾：現地大学生とのB&S研修と国立政治大学付属高級中学との学校交流、訪問前のオンライン交流を実施し、各年代との交流を深めることができた。 *韓国：研修旅行実施時期は、韓国の試験時期と重なるため、学校交流は難しい現状である。 *台湾：学校交流については、今年度と同様、業者に依頼するものと高校から直接やり取りする内容に分け、充実した交流になるように企画する。また、継続した交流となるように旅行業者を通じて依頼する。
庶務・国際交流部	ブルガリア交換留学とオーストラリア短期留学を引き続き実施し、事前・事後学習を充実させることで交流促進を図る。	○ブルガリア交換留学とオーストラリア短期留学のプログラムについて、ただ実施するというのではなく、星城高校の柱のひとつとして、ホームページや学校見学説明会などで広報し、生徒確保の一助となるような仕掛けを作っていく。 《A: 広報することができた B: 広報することができなかった》	◎ブルガリア交換留学(受入)は、10家族のホストファミリーを確保し、留学生を受け入れることができた。 ◎オーストラリア短期留学は、18名の生徒を派遣することができた。 ◎コロナ禍以降の海外事情にも関わらず、多くの生徒に国際交流プログラムへの関心を高めることができた。また、それらを学校説明会などで、次の世代へ伝えていくことができた。 *今後も企画・運営を継続する。
庶務・国際交流部	参加費用高騰により企画できていない北米エリアの短期留学は、新たな訪問地・訪問校を含めて企画実施の可能性を探る。	○業者にこだわることなく、北米エリアへのプログラムを持つ業者に打診して、あらたな短期留学プログラムの可能性を探っていく。 《A: 業者との打ち合わせを実施することができた B: 業者との打ち合わせを実施することができなかった》	◎北米エリアの提案を2社からいただいた。 *北米エリアへの派遣は、現在の為替相場の面で厳しい状況ではあるが、内容と経費を精査し、実現に向けて模索していく。
庶務・国際交流部	ボランティア清掃を年間4回企画することで、通学路及び学校周辺の清掃活動を通して、環境美化や地域貢献に対する意識の醸成を図る。	○定期テスト最終日をボランティア清掃の日と定め、参加生徒・教員を募集し実施していく。 《A: 年4回実施 B: 年3回実施 C: 年2回実施》	◎1学期に1回、2学期に2回のボランティア清掃を実施した。 *部活動生徒の参加がメインになっているため、クラスでの参加や職員の参加を促していく。
庶務・国際交流部	豊明市を中心とした公的機関からのボランティア活動は、Classiなどを通じて実施内容や意義などを生徒に広報し、参加生徒が増えるように導く。	○豊明春まつり、桶狭間古戦場祭、豊明秋まつりにおいてボランティア生徒を募り、社会貢献や自己成長、スキルアップ、他者との交流などの意義を理解させる。 《年間延べ A: 50名参加 B: 40名参加 C: 40名以下の参加》	◎豊明春まつり24名、桶狭間古戦場祭21名、豊明秋まつり14名の生徒を派遣することができた。 *生徒に対して、ボランティアに参加するに当たって、意義や目的をしっかりと指導して取り組ませる。
庶務・国際交流部	豊明市外のボランティア活動は、生徒の安全が確保されるとともに、ボランティア活動証明書等が発行されるものを対象として、Classiなどを通じて実施内容や意義などを生徒に広報し、参加生徒が増えるよう導く。	○豊明市外から依頼があったボランティア活動に関して、その趣旨や目的を吟味し、社会貢献・自己成長・スキルアップ・他者との交流の観点から教育機関としてふさわしいものを広報していく。 《年間延べ A: 10名以上参加 B: 9~5名参加 C: 5名未満の参加》	◎営利を目的とするもの、入場料を徴収するものなどの依頼はお断りした。この結果、目的を果たす依頼はなかった。 *今後も受け付けを継続していく。

担当	項目	具体的方策<目標>	実施状況 (◎実施したこと *今後の改善点)
部活動支援	一般的な学校での部活動の在り方やクラブ化、地域移行と照らし合わせながら、本校にあった強化指定部活動の在り方を構築する。	○文科省や他校などの外部から部活動状況についての情報を集め、部活動支援で検討し、案を作成した後、星城ビジョン推進委員会に提案する。 《1学期中に1起案》	◎強化指定部活動顧問会議を開催し、各競技の特性や他校の状況、情報、顧問の意見を集約した。現行の部活動ガイドラインを元に、修正点や提案を星城ビジョン推進委員会に提出した。(6/20作成資料提出) *学校から提示される新たな部活動体制やガイドラインを各部活動に周知徹底を促していく。
部活動支援	新たに導入されたフレックス制度に合わせ、強化指定部活動と一般部活動それぞれの顧問が、活動しやすい勤務形態を検討する。	○本校の部活動形態について部活動支援で検討し、案を作成した後、星城ビジョン推進委員会に提案する。 《1学期中に1起案》	◎部活動支援として、外部委託による強化部活動運営の提案を星城ビジョン推進委員会に提出した。(6/20作成資料提出) *学校から提示される新たな部活動形態を各部活動に周知徹底し、円滑に活動ができるように調整する。
部活動支援	学校の施設利用可能時間や教職員の勤務形態に合わせ、強化指定部活動と一般部活動それぞれの生徒が、活動しやすい活動時間を検討する。	○部活動時間等を部活動支援で検討し、案を作成した後、星城ビジョン推進委員会に提案する。 《1学期中に1起案》	◎強化指定部活動顧問会議を開催し、各競技の特性や要望、意見を集約した。現行の部活動ガイドラインを元に、修正点や提案を星城ビジョン推進委員会に提出した。(6/20作成資料提出) *学校から提示される新たな部活動体制を各部活動に周知徹底し、活動状況の確認や修正点を集約する。
広報部	学校見学説明会の参加者の増加を企画・立案する。	○各中学校の進路指導時期が早まっていることから、学校見学説明会実施時期を早め、7月1回・8月2回・10月1回に実施する。 《学校見学説明会 参加者2600名以上》	◎学校見学説明会の日程を早めたところ、参加生徒数は、2627名であった。 *中学生の進学先決定時期が年々早まっている。来年度は、6月1回・7月1回・8月1回・9月1回・10月1回の計5回開催する。
広報部	PTA中学校訪問など保護者が参加する説明会を拡充する。	○個別入試相談会を計10日間実施する。また、中学生の保護者が来校しやすいように、土日の実施日を増やし参加者増加につなげる。 《個別入試相談会 参加者100名以上》	◎個別入試相談会を10日間実施したところ、参加者数は、100名であった。 *土日の参加者が多いため、来年度は、土日・県民の日を増やし開催する。
広報部	中学校への訪問時に本校の学習の様子・進路実績などを理解いただくように広報する。	○進路指導部・各学年より定期考査、模試の結果、進路先について情報を入手する。4月・6月・9月の訪問の際に結果、進路実績を伝え広報していく。 《中学校109校に対し広報する》	◎中学校109校に対し訪問し、現況報告を行うことができた。 *進路指導部、各学年と校内で情報共有する。